〔1983年度春季〕

研究発表会ルポ

（3月28，29日　広島大学）

「研究発表会ルポ」とはいえ，好きなテーマの発表を聞くため会場をわたり歩き，「木を見て森を見ず」のたとえどおり，きわめて断片的かつ主観的となり，まさに「よしの髄から天のぞく」式の印象であることをお許しください．

28日朝，自宅から会場までバイクで40分，ほとんど車影を見ない山あいの道を過ぎ，東広島の農村風景の中を50km/hの快速(？)狭い農道に至るまで簡易舗装された情景を眺め，改めて日本の豊かさ(？)を思いつつ9時前に広島大学工学部に着きました．

冷えたからだを受付のストーブで暖めながら，アブストラクトを見ると，特別講演2件，研究発表112件，ペーパー・フェア14件と例年に比べて少し多めかなという感じです．実行委員の方々とダベった後，司会を命ぜられたA会場へ．早めに予稿を見ておこうと考えていたところ，第1発表者の高橋氏から「スライドが約20分かかるので少し早めに始めてほしい」との要請．実はペーパー・フェアで申し込んでいたのが会場の都合で一般発表に回されたとのこと．まずは最初からとんだハプニングでした．それでも5分前に始めて休憩時間を5分短縮ということでスタート．おかげで予習もせずにブッツケ本番で司会するハメになってしまいました．

さて，トップバッターの御園生・高橋(東北大)，五十嵐氏（東北電力）の「会話型需要予測システムの開発」は，実績分析・予測手法もさることながら，プログラム言語のＡＰＬ，図形表示の工夫等にポイントがあるように感じました．特に処理速度と，応答のバランス，システム開発・メンテとの関係など重要な示唆を含む発表でした．

つづく大野・木村氏（名古屋女子大）の「百貨店配送貨物の配送共同化システム」は，配送時間の短縮化を目的とする多因子モデル，実査結果によるパラメータ設定とシミュレーションが中心の課題で，さらに顧客のイメージ調査がこれに続く実践的ＯＲの問題であったと思います．ただ20分という制約が強く，具体的なモデル・手法の内容が省略されたこと，質疑・討論の時間が十分にとれなかったのは残念でした．

Ａ会場は「経営システム，特別テーマ」ということで，100名を超す聴衆がつめかけ，熱気ムンムンという状態でした．

ここで休憩．次の座長さんにバトン・タッチし肩の荷を降ろした気持でコーヒー・ブレーク．休憩室で周囲の山々の新緑を眺めながらひと休みした後，Ｂ会場「数理計画」へ．

ここは聴衆数十人と割合静かなセッションで，三井谷・堀場・藤井氏（中国電力）の「ＬＰによる電源開発検討プログラム」は，理想的な電源構成を意図するモデルでありつつも，当面の検討課題は他電源との関連における最適揚水開発量ということ．裏返せば，電源立地の外的制約があまりにも強く，みずからの選択による経済開発が困難な電気事業の苦悩を浮きぼりにする発表であったともいえましょう．制約条件，変数が数千と聞いて驚いていたら，会場から10年位前のＬＰモデルの話が出て2度ビックリ，世はまさに巨大システムの時代になったという印象を強くもちました．

続く堀場・高岡・萩原氏（中国電力）の「同上インプット・ゼネレータの作成」は，上記に関連する続篇で実務者にとって今ひとつ重要なところ．萩原さんの発表はよく準備され，観光バスガイドさんの説明（失礼！）を聞くような名調子，前述の大野さんの発表を含めもっと女性の発表者がふえれば楽しいなと感じたのは私1人ではなかろうと思います．

午後は，まず山本健一郎氏（東洋工業専務）の特別講演「当社における研究開発の課題」．企業のトップとしての広い視野から，わが国自動車産業の現状と特質について論述された後，自動車に求められる社会的要請とユ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

ーザーの多様な価値感およびその変化にどうこたえ，いかにその機能を具現化してゆくかが，今後の方向性であり研究開発の課題でもあるといった論旨で，まさに企業戦略のお話でもあったと思います．

社会的要請としての「公益性」,「安全性」,「省資源」といった課題は当然相互に矛盾した要素をもつが，これを克服し，調和をはかってゆくのがテクノロジーであること．

エレクトロニクス（たとえばセンサー→制御），材料（軽量化と強度の両立，たとえばプラスチック，セラミックスと金属の組合せ）等の動向．価値感の変化とライフ・タイム……ヒューマン・マーケット，研究開発・生産分野への影響と対応（シナリオ，段取変更の迅速化，CAD→CAEへ）といったお話の中に身近な事例やエピソードが豊富にまじえられ，有益かつ楽しい1時間であったと思います．

ただ，この講演を聞きながら，都市および周辺部の交通ラッシュを思いつつ，技術開発と政治・行政の関係，企業と社会（交通）システム，貿易と国益等々，マクロとミクロの調和といったことのむずかしさについても，改めて考えさせられた次第です．

その後またA会場にもどり午後の発表を聞きましたが，それぞれ内容が豊富なため問題の骨格がつかめた程度になってしまいました．

最後のセッションはペーパー・フェアです．会場はまさに夜店のようなにぎやかさ，標題に引かれて大阪府立大グループの「ネパール国第6次5カ年計画の解析と検討」を聞くことにしました．

エベレスト・マナスル・ダウラギリ等を含むヒマラヤの国，ブータンとともについ最近まで，鎖国状態にあって，医療奉仕の方々や旅行者によって自然・風俗が報じられ，古き良き時代(？)の風俗・人情を残す国といったイメージから，どのようにして産業構造や国民経済諸量を把握し，将来の産業連関，I/O分析をするのかという点が興味の中心でした．

経済統計の不足はタイ，インドネシア等の情報でこれを補完推定するとのことですが，原単位1つをとってもなかなかデータ把握の困難な作業だなと思いました．

ただ，この解析が技術・経済協力の中で，どのような位置を占めるのか．5カ年計画がどのような産業，国土開発に重点を置いたものなのか．この国の位置，3000～4000m級の山々によって区分され，今後とも地方ごとに自給自足の経済といった色彩が濃いであろう制約の中で近代化の方向がどう指向されているのか．といった点が十分に納得できないまま時間切れになってしまったことは残念でした．

その後の懇親会は駅前ホテルの大会場．田園都市東広島という条件が幸いしたのでしょうか，出席人数も多く盛況でビールや樽酒を潤滑油に，にぎやかな談笑の輪が広がっていました．

翌29日の最初はペーパー・フェア．格調の高い部会報告で，よく理解できないままに時間が経過してしまいました．質疑討論の段階になっても，話の内容が消化できていないので，わからない点すら見出せない状態です．こんなのを「わからんの自乗」というのかなと情無く思いながら，少し寒いので休憩室で熱いコーヒーを飲んだ後，B会場「数理計画」へ．

長津氏（共和コンクリート）の「当社におけるOR研究—輸送型線形計画モデル」は典型的な輸送問題．しかも第1次接近というか大胆なモデルで，ORの原点にふれる思いがしました．それだけに生産計画・在庫・材料手配・予算管理等との連けいや，具体的な道路網と需要

関西支部事務局変更のお知らせ

58年度より関西支部の支部長が長谷川利治氏(京都大学)となり，それにともない，支部が次のとおり変更になりました．

〒606　京都市左京区吉田本町　京都大学数理工学教室内　☎ 075 (751) 2111　内 5513, 5503

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

場所等モデルの改良，検討領域の拡大が期待され興味深い発表であったと思います．特に中堅企業や専門メーカーにおいて，ORの適用が輪を広げつつあることを頼もしく思いました．

つづいてC会場「シミュレーション」へ．島田（明治大）・福島(日本歯科医師会)氏の「歯科疾患SDモデル」はきわめてマクロな問題，平林・菅野・岡田氏（東京理科大）の「計算機犯罪のシミュレーション」はわれわれの身近に起こるかもしれない話題，門外漢のため内容的によくわからないところもありましたが，いろいろな面での研究がなされているものだと感心しました．

昼休みはモニター会議に出席しました．特に責任のある会議でもなく，座談会・放談会といった感じです．

「モニターをやるとOR誌を熱心に読む」，「連載記事は大家に依頼し，初心者にもわかるように」，「投稿原稿の歓迎」，「軽い記事（海外事情，OR演習，歴史，失敗談，等）もあってもよい」などの話から「実務家，学生会員に読ませる記事を……会員増加」，「ORの社会的啓蒙を」といった話題まで．注文を出すほうは勝手なことを申し上げられますが，階層・分野の異なる2000人からの会員のこと，編集，普及委員の方々のご苦労がよくわかりました．

モニター会議が14時前に終了し，その後はF会場「都市・環境システム」へ．

柳井氏（慶応義塾大）の「低開発国の人口—経済推移モデル」は，昨日のペーパー・フェア「第三世界とマイコン研究部会」の一環とのこと．「自給自足」，「ささやかな均衡状態」を前提とするモデルは，まさにネパールやブータンを連想させるものです．シミュレーションによるシナリオは従来定性的にいわれていたことを裏づける物語り．「1期15年というのは，すこし荒らっぽくすぎないか」との意見もありましたが，ポケット・マイコンといういれものの制約もさることながら，結果的には五十歩百歩という感じ．特別な資源をもたない低開発国の経済発展というのは，自力更生の観点からいえば八方ふさがりということで，別の次元，視角からの方策がないことには，どうにもならないという印象を強くもった次第です．

さらに後半のセッションで興味深いものもありましたが紙数も尽きたようなので，ここで筆をおくことにいたします．

終りに実行委員の1人として，会場の準備に当られた広島大学の方々に感謝いたします．本当にご苦労さまでした．

（住山哲太　中国電力）

ビジネスゲーム

本研究部会では，昨年度下記のような研究会を開催いたしました．なお，特に断わらない場合を除いて，開催場所は大阪中央電気倶楽部です．

●第1回

3月13日(土)　朝尾　正氏（田辺製薬）の考案による実験計画法ゲームを氏のご指導のもとに行なった．具体的には，パソコンを用いて2因子，3因子の実験計画による極値探索のゲームを実施した．

●第2回

5月8日(土)　新参加者も含めて，研究会の今後の進め方，ビジネスゲームのめざすもの，方法論，応用などについて意見交換した．

●第3回

6月5日(土)　標準ゲームとしてのExecutive Gameの体験的な実施．村山先生（追手門学院大）のご指導のもとにゲームを体験した．

●第4回

7月3日(土)　前回に引続き Executive Gameを実施した．

●第5回

8月7日(土)「標準ビジネスゲームについて」の討論会．前回のゲームの体験をふまえて，標準ビジネスゲームのあり方について討論．ゲームの目的，要素のモジュール化，意思決定との関係など種々の意見が出された．

●第6回

9月18日(土)「ビジネスゲームの効率的開発・使用をめざす理論研究のために」という杉原先生（京都産大）のご発表を中心に，ビジネスゲームの分類基準や標準ゲームの意味，不確実性の意味などについて議論した．

●第7回

10月2日(土)　於・追手門学院大　村山先生の研究室にて，いくつかのパソコンによるビジネスゲームを実施し，比較検討した．

●第8回

11月20日(土)　ビジネスゲーム作成の重要な柱となる経営計画に関して小島先生（和歌山大）に「経営計画の立案」という講演をしていただいた．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．